

# 令和5年度 体育 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・感染症対策をしたうえで運動する機会を増やすことができた。

### (2) 課題

- ・長期にわたるコロナ禍の為、運動の機会が減り体力の低下が見られる。
- ・運動のコツやポイントをつかませるような指導を展開しているが、技能の定着にはまだ課題が見られる。
- ・様々な基本的な体の動きを身に付けることに課題が見られる。

## 2 授業の課題分析

### ① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキップや短縄跳び等の基本的な動き、運動が苦手な児童もいる。</li> <li>・それぞれの運動能力の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのめあてをもって運動に取り組んでいる児童もいる。</li> <li>・自分で目標を設定できない児童もいる。上達できない時、理由を考える前に諦めてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童が向上心を持ち、意欲的に運動に取り組んでいる。</li> <li>・苦手なことには取り組もうとしない児童もいる。</li> </ul>

### ② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の手先や体を操作する運動に関しての能力差が大きい。(バランス感覚も)</li> <li>・投げたり、回ったりする動きのポイントを理解していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人技能でも団体技能でも、常に自己のめあてをもって取り組めていない。</li> <li>・自分に合った練習の場を正しく選ぶことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2度取り組んでみて、できないとすぐに苦手意識を持ち、チャレンジしようとする意欲をなくしてしまう児童がいる。</li> </ul>

### ③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具を操作する運動についての技能が十分に身に付いてない。</li> <li>・それぞれの運動の技能の定着が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を把握するために足りない部分や必要な練習などを思考する力が十分に身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手なことにもチャレンジしようとする意欲はある。</li> <li>・体を動かす楽しさや心地よさを味わうために必要な基本的な体の動きが身に付いておらず、体育に意欲的に取り組めない児童もいる。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの活動の場を設定して、関わりを増やす。</li> <li>・準備運動と共に、単元に合わせた補助運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入、終末時に、学習のめあてと自分自身のめあてについて確認する。</li> <li>・めあてとしてではなく、やりたいこと、やってみたいこととして考える。</li> <li>・学習中、どうやったら運動が上達するかについて考えさせ、学級全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自身が練習の場を考えられるような単元計画を行う。</li> <li>・苦手な児童でもチャレンジしようとする平易な場を用意する。</li> <li>・教師が運動の苦手な児童の課題を把握して、個々に必要な練習方法等を示す。</li> </ul>

#### （2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・投げる・回る動きのポイントを指導したり、正しい補助をしたりしながら、技能の定着を図る。</li> <li>・低学年からの基本の運動の経験を生かして、専門的な動きにつなげていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをもって取り組ませることができるよう、授業のまとめで、できたことやできなかったことを振り返らせる。また、自分のめあてに合った場の選択ができるように、ペア学習やトリオ学習で取り組み、友達同士で教え合えるようにする。</li> <li>・めあてを自分で考えるのではなく、選択式の学習カードを用意する。</li> <li>・友達の良いところを学ぶための見方や方法を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手なことにチャレンジしている児童をたくさん褒め、意欲を高める。</li> <li>・場の工夫をし、やってみようと思わせる工夫をする。</li> <li>・ゲーム単元で勝敗を決めることを目的にせず、児童に「ゲームに楽しんで取り組めたかどうか」が大切である。」という意識を徹底させる。</li> </ul>

#### （3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール運動を通して、ボール操作など児童が用具を使う機会を多く設け、技能の定着を図る。</li> <li>・ルールの工夫や場の設定を考え技能差があまり出ないようにする。</li> <li>・技能に関する掲示物を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートなどを活用し自分の課題を考える時間を設ける。</li> <li>・ペア学習やグループ学習を活用してお互いに技に取り組んでいる姿を見合い、アドバイスし合える場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な児童でも取り組んでみようと思う平易な場の設定を行い、段階的に技に挑戦できるように工夫する。</li> <li>・個人内評価を活用し、上手い下手ではなく、個人的にどれだけ伸びた</li> </ul>

<p>作成し、技能ポイントについての理解を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ I C T機器の活用をして、自分の運動している姿を客観的に見る。</li></ul>	<p>か、教師側の意識を変える。</p>
------------------------------	--	----------------------